

1. マレーシア コタキナバル

①マレーシア～総面積 ～約33万km<sup>2</sup> 日本よりひと回り小さい国土

人 口 ～2746万人

人口密度～84人/km<sup>2</sup>

首 相 ～ナジブ・ラザク (Mohammad Najib bin Tun Haji Abdul Razak)

首 都 ～Kuala Lumpur (KL)

民 族 ～マレー系 66%、中華系 26%、インド系 8%、他

宗 教 ～国教はイスラム教、他に仏教、ヒンドゥー教、キリスト教等

通 貨 ～マレーシアリングgit (RM) RM1 = 約30円(2013年10月)

GDP～2786億ドル、神奈川県よりやや小さい経済規模

一人当たりのGDPは9,699ドル、シンガポールに遠く及ばないものの、タイの2倍近くの水準

②ボルネオ島 (Borneo) ～世界で3番目に大きな島

ボルネオ島の北西部にサバ州とサワラク州

「マレー半島部」に対して「東マレーシア」と言われている

熱帯雨林のジャングルが広がり、稀少動植物の宝庫

独自の文化を持つ先住民の文化

ブルネイとインドネシア (南東部) に接する

③コタキナバル

～ボルネオ島サバ州の州都 マレーシア第2の都市

ジェッセルトンと呼ばれたイギリス支配から日本軍占領、

連合軍による爆撃を経て1968年にコタキナバルへ改名

今年度TPP開催地として有名に



2. 日本とのかかわり

①日本軍による占領時代

②ルックイースト政策 ～1981年第4代首相マハティールが提唱

日本の集団主義と勤労論理を学べ

昨年、一昨年にルックイースト政策30周年式典が各地域で開催

③自動車 ダイハツ・三菱が技術協力

3. コタキナバル日本人学校

①沿革

・昭和53年度(1978)

8月 ・各家庭持ち回り寺子屋式補習校開設

10月 ・コタ・キナバル日本人会発足

12月 ・日本語補習運営委員会発足

・昭和57年度(1982)

12月 ・全日制昇格決定

3月 ・職員室、図書室増設

・昭和58年度(1983)

4月 コタ・キナバル日本人学校  
開校式典挙行

・平成24年度(2012)

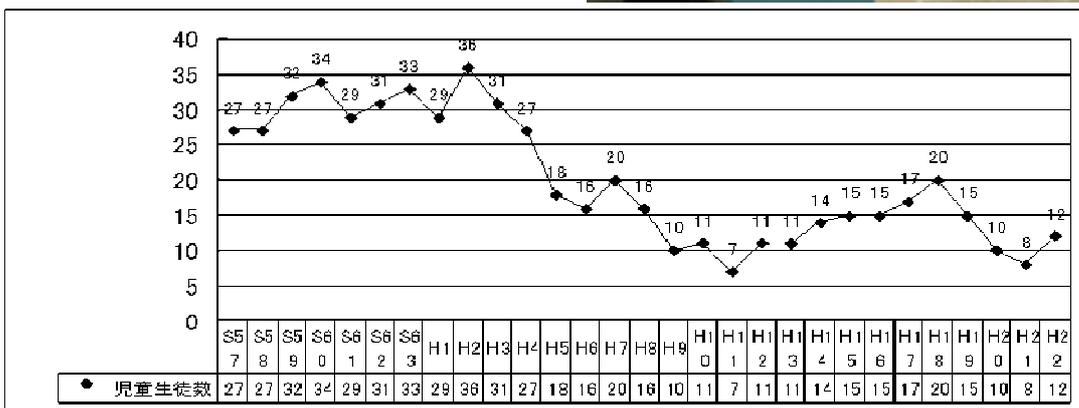
9月 日本人学校

創立30周年記念式典挙行

3月 小1～2名、小2～3名、  
小3～4名、小4～1名  
小5～2名、中1～1名

計 13名

派遣教員～5名(校長1名)



②生徒・保護者の動向の一因

- ・ MM2H ビザで長期滞在  
(マレーシア・マイ・セカンド・ホーム)
  - ・ 50歳以上～35万RMの財産証明  
15万RMの預金等
  - ・ 50歳未満～50万RMの財産証明  
30万RMの預金等
- ・ オーストラリアと比べて取りやすく、  
物価も安く治安もよく、親日的地域
- ・ 震災による避難

③特色ある教育課程

- ・ 1日の生活

**コタキナバル日本人学校の生活**

7:50  
「おはよ〜!」元氣よく登校

8:00 朝の時間はいろいろな  
取り組みをしています

朝トレ〜5分間走〜基本的な体力をつけます

全校朝会〜司会進行は高学年部が行います

読み聞かせ〜上級生が下級生に読み聞かせます

音楽朝会〜みんなで楽しくたいます

カルタ大会〜赤、白わかれて盛り上がります



スピーチ交流〜小学校1年生から中学生まで全員がスピーチ

漢字カテスト・計算カテスト〜満点めざして真剣!

10:20 リフレッシュタイム〜フルーツを食べて

12:20 全校一緒のランチタイム ~ 今日のお



・ 多彩な現地理解教育

○自然体験活動 ～ 年一度小学高1年生から中学生までの全校行事

近郊の海岸中心～海（海の生き物観察）、川（マングローブ）

水上住居

世界遺産に接する機会も



○俳句作文会 ～ 全校でスクールバスを用いて移動 海外子女文芸作品コンクールへ応募

海外地域での日本の文学創作のおもしろさ

コース例～ 学校 ⇒ 街が見下ろせる展望台 ⇒ セントラルマーケット

⇒ フィッシュマーケット ⇒ ビーチ ⇒ モスク





はすの花 かれんにゆれるよ ふわふわと



すなのいろ おおなみくると こくかわる

○総合的な学習の時間（キナバルタイムについて）

ねらい

サバ州・ボルネオ島・マレーシアの自然・歴史・文化への理解を深める中で、日本とマレーシアの関わりに関心を持ち、広く世界に目を向けることのできる子どもの育成を目指す。在地の自然や歴史・文化への理解を深めることで、国際社会に生きる人間として、またコタキナバル日本人学校に通う児童生徒としての自覚や誇りを持たせる。

方法

サバ州・ボルネオ島・マレーシアの自然、産業、歴史、文化等について調べ、体験活動を取り入れながら理解を深める。1学期は自然、産業、歴史などについて、具体的なテーマのもと興味関心のある分野を選び、年間活動計画を立てたり、調べる内容を決めたりして、調べ学習を進める。1学期後半から2学期は調べたことをもとに体験活動を行う。3学期は学習の成果をまとめ発表する。キナバルタイム発表会の効果的な表現方法、発問の工夫と質問や感想に対する対処の能力、プレゼンテーションソフト（パワーポイント）の基本的な操作・活用方法も身につけさせる。日本とマレーシアとの比較や関係などにも目を向けさせる。自分たちの住んでいる国・地域に対するより一層の理解と愛着が生まれることを目指す。

●キナバルタイム～まちたんけん



○国際ナショナルスクール・現地校との交流

現地の国際ナショナルスクールと現地校の相互交流を実施

招待時は書写や日本の遊びや七夕等の日本文化を紹介

訪問時には現地校の授業体験、相互文化交流等



・全員参加の研究体制

派遣一般教員＋校長＋ローカル teacher

(低学年部会&高学年部会)

H24年度 研究テーマ <豊かな表現力を育てる指導のあり方>

～異学年での活動や多様な言語活動を通して～ <<複式授業の交流>>



ラフレシア



東南アジア最高峰キナバル山 4095.2M

(世界自然遺産)